

市長定例記者会見 概要

■日時：令和3年8月30日（月）午後2時から午後3時10分まで

■場所：市庁舎5階第4会議室

■相手方出席者：神奈川新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、東京新聞社、テレビ神奈川、ジェイコム湘南・神奈川、時事通信社、タウンニュース社

■市側出席者：市長 桐ヶ谷 覚、副市長 柏村 淳、教育長 大河内 誠
経営企画部長 福井 昌雄、経営企画部担当部長 福本 修司、総務部長 田戸 秀樹、
市民協働部長 岩佐 正朗、福祉部長 須藤 典久、環境都市部長 石井 義久、
環境都市部担当部長 芳垣 健夫、消防長 行谷 英雄、教育部長 村松 隆

■陪席者：企画課長 仁科 英子、広聴広報係長 西 久美子

■配付資料

- ・令和3年逗子市議会第3回定例会の招集について
- ・妊婦の方及びそのパートナーの方への新型コロナウイルスワクチンの優先接種について
- ・新型コロナウイルス新規感染者報告数、近隣市町との比較及び年代別感染状況
- ・(参考) 逗子市内の店舗で使える、逗子応援プレミアム付き電子商品券を販売します
- ・(参考) 商店等新しい生活様式対応支援事業補助金について
- ・地元建設業者が訪問看護ステーションへ軽自動車を寄贈します

■内容：下記のとおり

【企画課長】

定例の逗子市長記者会見を始めます。まず、市長から発言をさせていただきます。

【市長】

よろしくお願いいたします。

○令和3年 逗子市議会 第3回定例会の招集について

本日、令和3年第3回市議会定例会の招集告示をいたしました。

案件は、お手元のプレスリリースにありますように、3件の報告、14件の議案を予定しています。

本議会では令和2年度の決算を審議いただきます。健全化判断比率及び資金不足比率について報告いたしますが、全ての数値が健全であり、健全化が求められる基準には該当しませんでした。

令和2年度の一般会計の決算では、歳入歳出の決算上の剰余金は、16億6,711万9,832円となりました。この金額は、歴代2位の金額です。ちなみに過去最大は、平成2年度決算での19億5,955万1千円でした。10億円を超える実質収支は過去8回ございました。今

回、2番目となった理由としては、1つは歳出の抑制の効果が挙げられると思います。また、予算編成時から歳入が大変厳しいという見込みのもとに、歳出予算を厳しくしてきたことがこういう結果に結びついたのではと思います。併せて、入札（契約）による事業費の減少もございました。そうしたものが重なり、今回の16億強の剰余金ということになりました。

議案第39号から議案第41号につきましてご説明させていただきます。

現在、逗子市いじめ防止基本方針の策定に向けて準備しています。平成25年6月成立したいじめ防止対策推進法を根拠に、このたび10月1日策定の予定で準備しているものです。理由は逗子市が策定していなかったため、県の教育委員会からも策定するようにとの促しがあり、令和3年10月を目途に策定するというお約束をさせていただきましたので、このタイミングとなったということです。この方針の中で、いじめ防止等を推進する組織として、いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題調査委員会、いじめ問題再調査委員会を条例に基づいて設置する必要があり、議案として提出させていただきました。

その他に6点ご説明します。

○妊婦の方及びそのパートナーの方への新型コロナウイルスワクチンの優先接種について

妊娠中の方の新型コロナウイルス感染による重症化を防ぐため、日本産婦人科学会等の提言を踏まえ、接種を希望する妊娠中の方とそのパートナーの方の優先接種を行いたいと考えています。具体的には、専用の優先予約期間・接種期間を設定いたしまして、予約を受け付けます。一部の医療機関での接種となりますので、対象の方々には本日、8月30日に通知を郵送いたします。

○新型コロナウイルスワクチン接種について

逗子市の状況は、65歳以上の方々に1回目の接種を終えた方が88.5%、2回目の接種を終えた方が86.1%です。順調だと思います。

また、全世代ですと、1回目の接種を終えた方が48.6%、2回目の接種を終えた方が37.2%です。数字そのものは、神奈川県内の平均を上回っています。何よりも、今はワクチンそのものが思うように届かないのが現実でして、届き次第、鋭意接種をしていきます。

ワクチンが無駄にしないという観点から、新たな取組みを準備いたしました。いま60歳以下が接種していますが、急なキャンセルがあった際に、既に予約を取られている方が前倒しで接種していただくという考えです。LINE等で呼びかけをしました。その結果、約4,600人にご案内したところ、909人にお申し込みをいただきました。既に9名の方が接種しています。逗子市におきましては、高齢者の接種が5月10日から始まりました。その前に、4月1日から9日までにもキャンセル待ちの設定をしました。この時は814名の方から申し込みを受けました。これは大変有効でした。5月10日の開始日に私も会場に行きましたが、2時スタートで2時半の枠にキャンセルが出たという事態が発生しましたが、キャンセル待ちの方にご案内をして、その時は80歳代の方でしたが接種をしていただきま

した。

第1回目は、92歳以上が接種をしましたので、80歳代の方はまだまだ接種券が届いていないという状況でしたが、無駄にしないで出来たということです。今回も予約をされた方の中から前倒して、キャンセル待ちを活用していこうと考えています。

今後のワクチンの見通しについてです。第14クール、9月13日から20日の週に配送されるワクチンが3箱、約3,500回分のみの確定でして、なかなか思うように供給量が増えていないのが現状です。いま現在、限られた供給でありますけれども、供給量が示されたならば即、予約枠を順次開きましてお受けするという事です。

いま、これまでの感染の中から傾向を読み取ろうとして、特にこの1ヶ月細かな分析をしてみました。逗子市のピークは8月の12、13日でした。この近辺は1日当たり15人、14人、18人、11人と二桁で推移をしていました。これを10万人換算に置き換えますと、162人ということになりまして、県の全体の数字よりも多いという日もございました。しかし、若干いまは下がってきておりまして、一桁後半というところの人数で推移しております。年代別の数値を取ってみました。10代未満は1ヶ月間で6名います。10代も非常に多く46名ですので、両方で52名という人数になります。20代が41人、30代が37人。40代が54人で一番多いです。50代が40人、高齢者は数が少なくなっています。10代の感染者数は、私は危機だと感じています。いま、中学校は再開しました。小学校も1日から予定通り再開します。その中で10代未満の感染者が多い、10代未満の6名は小学生かと思いますが、10歳から19歳で46名いますので、そのうち小中学校に該当する方々も含まれるということを考えますと、小学校、中学校の再開がいかげななものかということも懸念される所があります。しかし、緊張感を持って再開するという判断をさせていただきました。詳しくは教育長、教育部長に質問をいただければと思います。私の考えは、子どもから親へ感染するという経緯も踏まえて、休校にすれば安全かという決してそうではないという考えです。子ども達同士で感染も考えられることから、規律を持った生活の下できちんと感染予防をしていくことが大事であるという考えであります。その上で適宜対策はしつつ再開する準備をしているところです。

○逗子応援プレミアム付き電子商品券について

以前にも発表させていただいておりますが、一部、変更をさせていただきました。当初9月中旬から開始予定でしたが、コロナの感染状況を踏まえて10月上旬に変更しております。また状況を見ながら考えてまいりますが、10月上旬で準備をしております。2度目になりますが、前回は昨年11月に販売をしました。大変活況ではございましたが、反省点もいくつもありました。1つは、密になるような、並んで買うということはいかげなものかという非常に大きい苦情もございました。また、一日で完売しました。火曜日発売開始をし、決してその日で売り切れるとは思っていませんでしたので、週末の土日也十分にあるという想定のもとで火曜日に発売しましたところ、即完売だったということです。つまり、密

になったことと、お勤めの方々は買えないじゃないかということをお苦情としていただきました。また、市民でありながら市外の方が購入されたこともあり、買えなかったという苦情も数多くありました。そこで、今回は電子での販売にさせていただきます。1つは、スマートフォン向けアプリケーションを採用させていただきますが、そういったものが難しい方にはカード式のものを用意いたします。今後、電子化の波はさまざま起こるであろうと考えておきまして、ご年配の方々でもこの機会に電子での購入に挑戦していただきたいと考えています。今回の電子の目標は今後の地域通貨に対応した取り組みの一環であるとか、いまは〇〇Payも普及していると言われていまして、そういったものの活用にも繋げていく1つの機会と捉えたいと考えております。年配の方々にとりまして、紙の方が良いよというお考えもあろうかと思いますが、スマートフォンの操作が不慣れだという方にもスマホ教室を実施しながら浸透を図っていきたいと考えているところです。スマホ教室については経済観光課が担当しますが、課なりの計画を持って準備していますので、この機会にスマートフォンの活用も経験していただきたいと考えているところです。

○商店等新しい生活様式対応支援事業について

既に動き出していますが、2つございまして、1つはフリーWi-Fiやキャッシュレス決済機器導入の補助金です。この申請件数は1件です。もう1つは、アクリル板や非接触式体温計等非接触推進機器の導入の補助ですが、これは4件です。両方を併用した申請は4件で、いま現在合計9件ですが、この後約90件申請予定がありまして、商店街等で取りまとめをしている状況です。令和3年7月から開始しまして令和4年1月31日が期限となりますが、期限までには相当数の申請があるものと考えております。まだ予算に余裕がありますので活用していただきたいと考えています。

○地元建設業者が訪問看護ステーションへ軽自動車を寄贈します

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、逗葉医師会では神奈川県からの委託がありました。自宅療養者を地域の医師や看護師らが見守る「地域療養の神奈川モデル」を開始するとの連絡があり、それを医師会側が受託するという事です。その時に動く足がないということから、建設業者が新車の軽自動車を寄贈するという事になりました。9月21日に贈呈式を行いまして、神奈川モデルの医療制度を逗葉地域医療センターが担っていくということになりました。いま現在も、逗子市におきましても一定数の感染者の方が自宅で療養していると聞いておりますので、その方々への安心の提供になるのではと考えております。

○令和3年度逗子海水浴場の概況について

今年は海水浴場を開設する・しないが地域で分かれた年でした。昨年は一斉に神奈川県内では開設せずという状況でした。今年は近隣ですと葉山町、三浦市、藤沢市は開設しましたが、鎌倉市は開設せずということでスタートしました。逗子市は開設にあたりましては、逗

子海岸営業協同組合と覚書を締結させていただきました。その上で開設をしたということであり、その中身は、まん延防止等重点措置が発出された場合の対応、そして緊急事態宣言が発出された場合の対応もそれぞれ覚書の中に細かに決めさせていただいております。それによって、本来7月2日開設予定でありましたが、まん延防止のその他区域に入っていたため7月16日に開設を2週間延期しました。22日にまん延防止重点措置区域に逗子市も入るということで、連休から酒類の販売ができないという状況になりました。組合側には覚書のとおり対応させていただきました。その後8月2日から緊急事態宣言ということになりまして、終日休場を余儀なくされたということです。海の家も即日休業となりました。他の海水浴場では日にちの問題ですとか、閉鎖する、しないでさまざまなことがあったと思いますが、逗子市におきましては、当初の開設条件の中に覚書がございましたので、これが有効に機能したと考えています。

しかしながら、開設はせずとも人は来られるということにして、いかに安心安全を確保するかが最大の懸案となりました。逗子市としては休場中でも条例に基づく警備、監視は行いました。特に飲酒対策です。なければ持ち込んできます。大変な量が持ち込まれております。持ち込んでの飲酒、マスクを外しての近くでの会話ということで感染が拡大するのではないかと懸念されました。逗子の特徴の1つとして、外国人の来場が非常に多いです。去年、一斉非設置の状況でお隣の鎌倉市や葉山町に外国人対策はどうしたらいいか相談させていただきましたが、逗子市以外はそれほど困っていない。大勢で来て、大騒ぎするような外国人はいないということで、逗子の特徴だということになりました。これは京浜急行、JRの駅からの距離感などがあるかと思いますが、昨年も様々な規制をしてもなかなか言うことを聞いてくれませんでした。SNSなどさまざまな対策は考えましたが、今年は屈強な外国人のパトロールに挑戦してみました。詳しくは担当所管から説明しますが、これは効果がありました。私も土曜日にパトロールと一緒に回りましたが、大した迫力です。逗子市の条例をしっかりと外国人の方々にもお伝えするには、そうした方法も視野に入れながら来年以降もやっていくべきかと考えているところです。休業にしてから、逗子海岸営業協同組合をはじめとする関係者の方々との関係を密にしながらパトロールやビーチクリーン活動を続けてまいりまして、安心安全な逗子海岸を保つということに一定の貢献をしたものと思います。逗子市は9月5日までが海水浴場の開設期間となっております。今週いっぱいやりますので、残りの6日間事故のないように、しっかりと管理してまいりたいと思います。最終的に考えますと、開設後、さまざまな状況に刻一刻と変わりましたが、当初にしっかりと逗子海岸営業協同組合と取り決めをさせていただいたということが大変大きな効果があって、大きな混乱もなくここまで来られたと感じています。来年以降もそうした準備をしながら開設に向けて行っていきたいと考えています。

私の方からは以上です。

【企画課長】

それでは質疑をいただきたいと思います。まずは幹事社からお願いします。

記者) 学校のことを伺いたいのですが、中学校は27日からですか。

市長) 27日からです。

記者) 今日午前中、鎌倉市に行ってきましたが、9月1日から1週間、午前中だけ授業をするということになったようですが、子どもが集まって感染が広がってしまった場合の国からも指針が示されたので、感染が起きたら粛々と対応していくけれど、想定外の爆発のようになったら対応を考えなければいけないと言っていました。感染状況の数字を見ても、10代以下、若い世代に広がっているようなので、大丈夫でしょうか。

市長) 閉じたら安全かというとなんかそんなことはなく、子どもから親に感染したり、子ども同士の感染も考えられるということになると、何が正しく、どれがだめということではないのではないかと思います。いかに規律をもって生活のリズムをしっかりと取っていくかが大事だと考えています。

教育長) 県の湘南三浦教育事務所管内の教育長会議に出て情報を得てきましたが、近隣の市町は短縮というかたちを取っていますが、逗子市においては二学期制を取っていますので、中学校は27日から始まります。27日は午前中顔合わせ、担任からの話、確認ということになっていますが、中学校につきましては前期のまとめになりますので、今日から前期の期末試験を予定している学校が3校中1校、明日から予定している学校が1校、週明けの9月6日から予定している学校が1校です。重なりますが、中学校は1週間くらいは短縮で帰るといふかたちになります。そして、部活を一切やらないかたちにしていますので、中学生、特に3年生につきましては、進学もありますので、きちんと安定したかたちで試験を受けさせようということもありますが、生徒数も違います。一番多い学校が511名、一番少ないのが245名、もう一つが354名ということで、一校につきましては学校の判断で午前と午後に分けて一日2科目にして、試験期間を延ばすと聞いています。他の学校につきましても感染対策を十分にしながら試験を実施するという事です。小学校は9月1日が午前中3時間授業で、3日に給食が始まりますので午前中は授業で、午後には掛かりますが短縮授業のようなかたちで給食を食べて下校となります。

去年、臨時休校がありましたので、家庭の通信環境の調査をしました。中学校が98%、小学校が97%、若干そこから増えているとは思いますが、小中学校とも98%の通信環境があると報告を受けています。ただ、これはお母さんやお父さんが使えるということかもしれません。子どもが優先的に使えるかどうかについては、そこまで調査を行っていません。今回オンライン学習の実施に向けてということで、中学校は27日、小学校は9月1日から

家庭に案内をしまして、タブレットを家庭に貸し出すということで学校から情報を発信しまして、オンライン授業ができるかどうか、朝の会等、コミュニケーションを止めないということと、非常時であっても児童・生徒の学びを止めないと考え、家庭と連携しながら環境整備を整えているところでございます。既に通信環境が整っていて端末を借りる必要がないという家もあるみたいですが、一斉に調査をしながら確認したいと思っております。いろいろなやり方がありますが、中学校はポイント授業、15分くらいのポイント動画というのでしょうか、質問を録画して貼り付けてそれを何回も見られるとか、小学校は1年生から6年生で違いますので、下級生は同時配信ではなく何回も見られる形かまたはそれを選択できるような発信の仕方を考えて準備をしているところです。これまでに各学校においてクラスごとにクラスルームで意見を募ったり、家から発信をしたり、徐々に端末に慣れようということをやっていますので、いろいろと課題はありますが、まずは家庭で通信環境を確認しながら学びを止めないような環境づくりということで協力しながら発信していきたいと思っています。

市長) 補足しますと、再開し、感染が出たらどうするかという国のガイドラインもありますが休校ということにいたします。先程の数字で、この1カ月に10歳未満が6人感染しています。また、10代が46人感染していてそのうち小中学生もある程度あると見なければいけないと考えますと、この先感染も起こり得ると感じています。しかしながら、まずは再開し、親御さんが行かせたくないという方は停止していただいて構わない、その代わりにオンラインで授業を配信するなりということで選択できるようにしたいと考えているところです。やらないのも一つの方法です。しかし、やるというのも選択肢の一つだと思っております。どちらがどうか、我々としては最大限対策をしながらやっていきたいというのが逗子市の考えです。

教育長) 23日に臨時校長会議を開きまして、既にこの先の対策について確認済みです。今まで感染防止対策をしていたが、少し緩んできたということでした。再度そこはきちんと基本に戻ってやりたい。子どもたちが大人から言われて動くのではなく、感染対策を自分のもので捉えて、コロナの予防に向かっていく、子どもたちが自主的に感染対策を自分事できるように、学校だけでなく地域と一体となってやっていく、そして27日に文部科学省からいろいろな通知が出ていますので、感染者が確認されたらどうかとか、ICTについてはどうかとか、臨機応変に子どもが一番困らない形で対応したいと思えます。

記者) 鎌倉市はGIGAスクールといって、タブレットを市内の全ての小中学校に配備済みということですが、逗子市はまだそこまでは行っていないのですか。

教育長) 逗子市は1月末に端末配備済みです。

記者) 鎌倉市もオンラインで授業が出来るかと思ったら、アカウントを配らないと端末があっても学校の中ではWi-Fiが飛んでいるので見られるけれど、家でコンテンツに繋がうとするとアカウントがないとだめですよ。銀の鈴社という民間業者と実証実験が始まったけれど、アカウントが配られていないから読めていなくて、それではだめだねということになっています。

教育長) 逗子市は既にアカウントを配付済みです。他市では端末は揃ったけれど校内の無線LANが遅いというところがありますが、逗子市では一斉に児童・生徒が使えるような高速LANを配置しています。

記者) 家庭の通信環境もこれだけ整っているのであれば、もう出来るのですね。

教育長) そうですね。ただ、パソコンですので小さいですよ。家庭でお父さん、お母さんが使うのがスマホだと、また小さいですので、学びを止めない対策をしていかないといけないので、9月1日から6日くらいまで、学校によって違うのですが練習を、学校から配信をしましてオンラインに向けた家庭の状況がどうか、再度確認をします。

記者) 配付したタブレットを自宅に持って帰って使って良いよという体制になっているのですね。

教育長) はい。

記者) 鎌倉市より進んでいるのですね。

市長) 小さなまちですから。

記者) コンテンツは先生達がお作りになるのですか。

教育長) そうです。各学校では教職員同士がどのようなものを配信しているか話しています。市教育委員会の教育情報化推進会議というものがあまして、各学校からICTを担当している教員が出席して打ち合わせをします。校長会議で毎回、各学校でのICT関連の進捗状況を報告して共通理解をしています。ある学校が進んでいて、学校により人数の多い少ないがありますが、共有してくださいということにしています。

記者) 現場というか、こちらが取材できるチャンスがあれば。配信しているところとそれを

家で受けているところの取材の機会をつくっていただければ。

教育長) 感染の状況もありますので、所管に伝えまして準備が出来たらよろしくお願ひします。

市長) 訂正をさせていただきます。ワクチンについてです。

福祉部長) 1回目の65歳以上の接種を終えた方が85.9%、2回目の接種を終えた方が84.5%、12歳以上の全世代の方で1回目の接種を終えた方が51.1%、2回目の接種を終えた方が42.4%です。12歳以上の全世代は神奈川県内の平均を上回っているということでございます。

記者) 中学校が8月27日から始まっていて、二学期制だから期末試験があるので午前中で帰りますというのはよく分かりましたが、小学校については9月1日から始まって、給食が9月3日からでそれ以降は通常授業ということで良いですか。

教育長) そのとおりです。

記者) 普通に5時間なり6時間なりの授業をするということですか。

教育長) そうです。

記者) これについてはどういった経緯で、短縮をせずに通常でやられるというご判断をされたのですか。

教育長) 8月23日の時点では9月1日からということで、最初の1週間、土日まで入れて短縮が5日間ということで、短縮が1日、2日、3日は給食を取って下校、その後土日が休みで6日は普通授業を予定しておりますが、感染状況を踏まえながら1日、2日に考えることになっていきますので、今の時点では平常授業というかたちです。

記者) 3日の給食を食べて帰るとするのは短縮授業という表現ではなく、元々コロナの第5波を見ずにそのようなつもりだったということですか。

教育長) 黙食を含めながら、給食を取って午後帰るとのことです。

記者) それは、小学校、中学校、学校が話題になってからそれを決められたのか。

教育長) 元々です。

記者) では、逗子市としては第5波の学校がというところを強調するようになってから新しく追加でというのは決めていなくて、1日、2日に感染状況を見ながら再度決めるということですね。

教育長) はい。

記者) さっき仰ったのが、自分でコロナ対策をするのも大事だということも踏まえてやられるようにした。市長が仰ったように休校にしても家庭で感染する可能性もあるからということですよね。

教育長) はい。

記者) 分かりました。ありがとうございます。

記者) 3日は給食を食べて下校というのは、1学期が終わる時点でその予定だったのですか。

教育長) そうです。

記者) 例年、逗子市ではそうなんですか。

教育長) 間に日曜日が入ったりということがあるので分かりませんが、年間で給食の配付日数が決まっていますので、最初から9月3日は給食です。

記者) 3日の給食が決まっていて、その日の午後授業をしないということも、元々、例年、逗子市は初日は給食を食べたら帰りますということですか。

教育長) 授業というか学活のようなものはあるかもしれませんが、午後帰る学校がほとんどです。

記者) 元々ですか。

教育長) はい。

記者) では、今回は短縮はしないということですね。他の自治体では午前中だけの授業にして、給食を食べて下校します。それで短縮ですと言っている自治体が多いので、そうなのかなというところがはっきりしなかったのですが、逗子市では短縮日課にするのではなく。

教育長) 元々そうです。

記者) 分かりました。

記者) プレミアム付き電子商品券についてですが、スマホ教室についてですが、いつ、どの辺りで何人くらいを対象に開く予定ですか。

市民協働部長) スマホ教室は9月から予定をしていましたが、緊急事態宣言を受けて施設の利用も制限があります。それを踏まえて9月12日以降に、予約が入っているので1回につき5人から10人くらいいっしょにやりましたが、施設を替えながらやっていく予定です。今のところ9月中に3回から4回は予定しています。10月以降も少しずつやっていく予定です。

記者) 全部で何人くらいが対象になりそうですか。

市民協働部長) いま声掛けをしています。1回に10人から20人を予定しましたが、施設が小さくなる可能性があるため、全体にどれくらいかは難しいです。できるだけ多く、40人から50人くらいは期間中にやりたいと思います。その他にもコールセンターの設置などでカバーしたいと考えています。

記者) 2点目ですが、販売総額のところでスマートフォン向けが8割、カードタイプが2割ということですが、これは全部電子にするのではなく2割は紙で残すという認識でよろしいですか。

市民協働部長) 2割は紙ではなくカードタイプです。葉山町や鎌倉市がやっている方式ですが、カードに当たった方の金額を読み込ませて、そのカードをお店のカードリーダーで読み込ませて決済していただくという方式です。

記者) 発行総額と販売総額の数字が違う理由は。

市民協働部長) 発行総額はプレミアムが付いています。販売総額はカードタイプとアプリケーションタイプでプレミアム率が違い、カードタイプは25%、アプリケーションは30%の

プレミアム率で計算をしています。

記者) 使い先は、一般の店舗や飲食店という認識でよろしいでしょうか。

市民協働部長) 今回、飲食店を中心にしたいと考えていますが、小売店、スーパーでも使えるようにします。前回は専用券と共通券で、8対5の割合で、大規模店で使えるものと小売店、小規模・中規模店でしか使えないものとなりました。

記者) 前年度もとても好評だった事業なので、今年度も好評だと思います。来年度以降についてはなにか考えていますか。

市民協働部長) 今回も前回同様、地方創生の臨時交付金を予定していますので、財源がどこまで揃うかという問題は出てくるかと思っています。その辺を勘案しながら来年度は考えていきます。

記者) 臨時交付金は今回いくら充てるのですか。

市民協働部長) 全額です。

記者) 海水浴場の件ですが、今回の振り返りをお話いただきましたが、具体的に市の職員や警備員で海岸を回って、注意の件数や退場勧告まで今回はやりますと聞いていますが退場勧告を実際にした件数、事故の件数など分かるものがあったら教えてください。

市民協働部長) 注意の件数は全体で7月16日から8月25日までの41日間で3,243件です。項目は全て入っていて、飲酒、バーベキュー、入れ墨、タトゥー、スピーカー、たばこ、密集等も入っています。昨年は8月31日までの40日間で4,674件です。若干、減っていて、昨年はお願いというかたちでしたが今年はかなり厳しくやっています。退場の件数は全体で7件です。1回ではなく3回以上注意しているところに対して警告を発して退場となります。苦情の件数は合計で38件です。昨年に比べると22件多くなっています。特に今回多かったのが、街中におけるマスクをしていない人、街中に人出が多いというような苦情が16件ありました。これが件数が多くなった理由だと分析しています。

記者) 事故の件数は特にないですか。

市民協働部長) 消防の出動件数は4件ほどありました。昨年と同程度で、大きな事件、事故は今のところ確認はしていません。

記者) 注意とか退場勧告までいくような件数もあったということですが、傾向でどういう人達が注意件数では多かったとか。退場勧告だとどういう人達に対しての勧告が多かったとか、中身はいかがですか。

市民協働部長) 飲酒です。飲酒で複数回注意をしても聞かないということです。昨年もこれはありました。ただ、今年は海水浴場を開設したということで、海水浴場の開設者としての権限を持ちながら注意をして、条例違反者に対しては厳しい対応を取りました。昨年は海水浴場を開設していませんので、市の権限が何も無い中でのお願いというかたちでしたので、今年は厳しくしました。中身的には飲酒、スピーカーの2点で退場となりました。

記者) こういった件数を踏まえて市長にお伺いしたいのですが、逗子海水浴場の課題、こういったマナーが来る人に徹底されていないとか市長が思われる課題や来年以降どうしていきたいというところをお願いできますか。

市長) 浜を見る限りは日本人の方はマナーを守りながら海を楽しむという、逗子市が願っているファミリービーチというものを理解いただける方が多いです。しかしながら、退場ですとか注意・警告で話が出る外国人ですとか一部の方々が課題と考えています。外国人は排除するのではなくてマナーを守っていただきたい、そのためにどうするか、その理解を浸透できるかというのが課題だと考えています。かつての雰囲気よりファミリービーチとして家族連れで楽しむという雰囲気は十分出てきましたので、さらにそこが定着できるようにしたいと考えています。

記者) 今回初めて入れられたナイジェリア人の通訳の方が同行されて、コミュニケーションをとってなぜだめなのかということの説明されているところは取材で見ましたが、来年以降も同じ方に来てもらうとかその辺りのお考えは。

市長) 今年一回で定着するとは思えないので、言葉というのは非常に大事だと感じましたので来年以降も予算に入れながら対策は講じていきたいと考えているところです。

記者) 実際、海の家がすごく短くしか開設出来なかったのですが、覚書を交わしていたから皆さん素直に閉じてくれたと思いますが、解体の費用が大変だと聞いています。休業補償も出さないと県は言っていますが、解体費用をお貸しするとか何か支援は考えておられないのでしょうか。

市長) そこも懸念のところでした、だからこそ最初の覚書が大事だったんです。解体費用等

を要求されてもそれは出せない。だからいつもは40軒くらい出る中、そういうリスクがあるならば出ないという方々も10軒くらいあった訳ですから、出たところに補償するというのは違うということから、きちんと理解をいただきます。やむを得ないですよ。

記者) 分かりました。ナイジェリア人通訳というのは屈強な方なんですか。

市長) はい。

記者) どれくらいの頻度で。

市長) 週末です。今週末まで入ります。

記者) プレミアム付き商品券の事業費はおいくらですか。

市民協働部長) 全体の事業費として1億2,539万6,000円、これが予算額です。先程の3億1,000万円というのは販売額になるのでプレミアム率と事業費で1億2,539万円です。プレミアム率分と購入額を足すと発行総額になります。

市長) 経済効果としては発行総額になりますので、3億9,000万円ですか。

市民協働部長) 発行総額は3億9,990万円です。

市長) それでこれから年末年始に向けて市中の経済を動かしていくということになります。

記者) 鎌倉市は縁結びカードといって一人一人に5,000円分配るかたちで、それだといま仰っていたような経済効果はないのかなという思いがありますが、逗子市はプレミアムを付けることで消費を喚起するというのを大事にするということですね。

市長) 去年もちょうど年末にそれが当たってきました、今の状況から考えると当時はコロナもまだ落ち着いていましたので非常に効果があったと思います。今年はコロナで外にも出られない。例えば年末年始は忘年会、新年会のシーズンで大手を振って行けるとなればこの効果は出るのですが、なかなかその時期になってみないとはっきり分かりません。少しでも飲食関係の方にも後押しをしているということが分かるようにメッセージとして出していきたいと思っています。

記者) 訪問看護ステーションへの寄贈式が9月21日で、モデルの開始は何日ですか。この

日ですか。

福祉部長) 医師会が神奈川県とまだ契約が出来ていないのですが、9月中旬くらい、寄贈式の前後くらいには実施したいと考えています。

記者) 今のところ寄贈より前ですか。

福祉部長) 中旬、15日前後くらいと思っていますが正確にはまだ決まっていません。

記者) 他の地域と違う特色などがあれば教えていただきたいのですが。

福祉部長) 基本的には神奈川県モデルなので神奈川県一帯でやり方は一緒です。逗子市の特色としては今回このように車を寄贈していただいて、迅速な対応が出来るということです。

記者) 関連して、現在、逗子市で自宅療養者は何人くらいいるのでしょうか。

福祉部長) 正確ではありませんが50人以上はいらっしゃるというのが数日前の情報です。

市長) 在宅で亡くなるということだけは何としても防ぎたいと思っています。先程12日、13日がピークだったと言いました。その3日遅れで消防への依頼が多かったんです。それまでコロナの患者の搬送は0もしくは1でしたが、16、17、18日は3件が続きましたから、感染者が増えると救急搬送も増えてくるということがありますので、とにかく全体を抑えていきたい。ワクチンの効果も考えられますが、60歳以上の方は、感染者数も様々な数値も減ってきますので、いかにワクチンを早く行きわたらせることができるかということに尽きるかと思いますが、ワクチンが入ってこないのが現状ということです。

(企画課長)

それでは以上で本日の記者会見を終了いたします。

どうもありがとうございました。

市長) どうもありがとうございました。